

# 学校の詩

うた



学校の教育目標

## 自律貢献

文責：教頭 藤田天平

### ◆2年生修学旅行 『虹』

2年生が12月16日(木)から2泊3日で広島、山口に修学旅行に行きました。今年度の修学旅行スローガンは「『虹』～1人1人があたりまえを徹底し責任持って行動できるようになろう～」です。結団式では、藤井浩彦校長が子どもたちに向けて以下のような話をしました。

今日の修学旅行を迎えるまでに、たくさんの方が関わってきました。そのことにまずは感謝しましょう。そして旅行中に心がけてほしいことが3つあります。1つは「その土地でしか学べないことをしっかりと学びましょう。」2つは「仲間の良さをたくさん見つけましょう。」3つは「事故やケガなく3日間を過ごしましょう。」



【山口県岩国市 錦帯橋前】

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言のため、旅行先や時期を変更して実施しましたが、普段の授業では学べないことを、実際に自分で見て、聞いて、話すことで体験できたのではないかと思います。また、日常の学校生活を離れ、仲間と寝食を共にすることで、これまで以上に仲間の良さや大切さを実感できたことと思います。そして、スローガンにもありますように集団行動をするためには、一人ひとりがあたりまえを徹底することが大切であることも学べたと思います。修学旅行を通して学んだことを、ぜひ今後の学校生活にいかしてほしいと思います。

### ◆『夢講座』 命の授業 ～ドリー夢メーカーと今を生きる～

12月22日(水)に「夢講座」を行いました。講師の腰塚 勇人(こしづか はやと)先生は「奇跡体験アンビリバボー」を始め、多くのテレビ番組に出演されたり、11年間で約2000回の講演をされたりしている大変有名な方です。以下、「夢講座」での先生の言葉です。

- 「ドリー夢メーカー」とは、自分の可能性を信じ夢を実現しようとする人、誰かの夢を知り応援しようとする人、誰かのありのままの存在を認め、思いやり、寄り添って生きる人のことです。
- 「助けて」って言える人は誰ですか？あなたは決して独りじゃない。ただと言わなければ分かってもらえません。自分を守るためには言葉にするんです。
- みんな誰かの大切ないのち。その友だちを大切に想う人がいます。自分も周りも傷つけてはいけません。
- たった一つのいのち。だからこそ自分のいのちの使い方を考えるのです。
- 夢は生きる力。夢は自由なwill。したい・行きたい・食べたい・欲しい見たい・なりたい 自信・自己肯定は小さな夢実現の積み重ねです。
- 夢あれば困難あり 困難あれば仲間あり 仲間あれば感動あり チー夢和ーク
- 命ってなに？命は人生のすべて。「今」私が使える時間 いのちは生きる・のびる・ちから 今の私は毎日生きてきた私 人生は今日の積み重ね そして様々なこととの「つながり」
- 自分の命の使い方は「自分と人のドリー夢メーカーとして命の喜ぶ生き方をすること」です。
- 「口」は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。「耳」は、人の言葉を最後まで聴くために使おう。「目」は、人のよいところを見るために使おう。「手足」は、人を助けるために使おう。「心」は、人の痛みが分かるために使おう。
- 真の知識は経験あるのみです。「っている」と「している」のは大違いです。幸動あるのみです。
- 先生を、大人を信じてほしい。自分の力を信じて欲しい。君たちの周りには本気で君たちを想っているドリー夢メーカーがたくさんいます。



腰塚先生のお話は、子どもたちの心にも、そして私たち教師の心にも響く言葉で溢れ、あらためて「命の大切さ」や「感謝の気持ち」、そして「生きることの意味」を学ばせていただきました。子どもたちもきっと心で受け止めてくれたのではないかと思います。

## 「虫の目 鳥の目 魚の目」

【教頭コラム】

### 「小さなサンタに感謝」

街角のイルミネーションが、クリスマスの近いことを知らせてくれる季節になった。ふっと、独身時代、仲間たちと遅くまで飲み歩いた、すてきな夜の雰囲気と呼び覚まされることもある。でも、それよりこの10数年の子どもとの駆け引きが走馬灯のように駆けめぐる。

母になって初めてのイブ。サンタからのプレゼントにほおをくっつけて眠る我が子を見つめていると、じわっと涙がこみあげた。若いころからの、私の夢がかなった日だった。

「サンタさんへ」の手紙の解読に困った年、予約したおもちゃ店に、「入荷の連絡電話に子どもが出たら、気を回してください。」と念押しした年。寝ずの番を3人交代で計画していることを知り、夜中に何度も目覚まし時計をかけ直し起きた年。いろいろあったが、喜びはしゃぐ顔を見られる年1回の朝は、子ども以上に私も幸せだった。

去年のイブ。そわそわと、なかなか寝静まってくれない子どもたちにサンタは困惑しているんだぞと思いつつ「先に寝るからね」と声をかけて寝室に入った。と、なんと私のまくら元にサンタからのプレゼントが届いていた。子どもたちの元より早く。

私の好きなチョコがぎっしり詰まった紙袋に「メリークリスマス」の寄せ書き。その見慣れた文字が涙でぼやけた。

顔を見合わせてクスクス笑っている3人の気配を背中を感じながら、子どもに先を越される喜びとさびしさを知った。

長い間続いた「夢」の終わりだった。

西日本新聞 「ひととき」より

「プレゼントをもらう自分」から、「プレゼントを与える自分」へ、どう変わっていくかを考える時期が君たちにもきているのではないのでしょうか。それはまさに、「子ども」から「大人」への転換期と言ってもいいのかもしれない。

君たちの喜ぶ顔を楽しみにしていたお家の人……。

今度は君たちが人に何かをプレゼントすることで喜びを感じていけるようになってくれればと願っています。プレゼントの中身は君たち自身で考えてください。



10数年前の学年通信にこの記事を書きました。

受験を間近に控えた3年生に対して、クリスマスの話を載せることには多少のためらいを感じましたが、受験勉強に邁進できるのは、家族をはじめとする多くの方の支えがあるからということ、そして、いつの日か支えてくれた人に対して恩返しができる人になってほしいという願いを込めて書きました。

この通信を書いた年のクリスマスの日には、我が家でも、いつまでも寝付かない子どもたちと、それを楽しんで見ていたサンタがいました。その年のプレゼントは、娘が「お楽しみ袋」、息子は「ユニフォームとコロコロコミック」をお願いしていました。そして、深夜子どもたちの枕元には靴下とこんなカードが添えられていました。

「サンタさんへ  
おそとがさむいから、おうちですこしあたたまってください。アメをおいているのでたべてください。」

……みなさん、メリークリスマス！

### ◆お知らせ

冬休み中の12月28日(火)から1月4日(火)までは「学校閉庁日」となっています。この期間及び休日や勤務時間外に新型コロナウイルス感染や緊急な連絡等がある場合は大野城市教育委員会にご連絡ください。

年末年始で外出機会が増えるかと思いますが、引き続き感染症対策をお願いいたします。【大野城市教育委員会 代表 501-2211】

